

移住者新聞

Vol. 1

二〇二一年六月
発行：日田市
ひた暮らし推進室

新緑の季節も真最中で、今年は例年に比べ早い梅雨入りです。早くも日田らしい熱い夏の始まりがうかがえます。今号は、二〇一九年四月に九重町から移住した鷺頭（わしず）さんご一家の、移住してからその後というテーマで暮らしぶりやお仕事等のお話を伺いました。

移住してからの生活

「ご縁を通して様々な出会いがあり、この家に巡り合えました。」とご縁の大切さを語る御主人。家探しが難航していた時、知り合いの移住者が空き家の所有者を繋いでくれて、すぐに家を借りることができたそうです。

御主人は牧場のアルバイトのため朝三時半起床、四時には洗濯物を回して家を出ています。その後自身の牧場に働きに行きます。子供たちはというと、中・高生のお姉ちゃんたちが洗濯物を干し、小学生の妹弟たちがゴミ出しと洗濯物を取り込んで畳むなど家事を手伝っています。また、日替わりで朝ごはんや夜ご飯後のお茶碗洗いも子供たちが分担していて家族が一つのチームのようでした。「子供たちが家事に参加することによって、将来本人たちのためになる。」とご夫婦はおっしゃっていました。

住み始めて三か月が経った頃、大雨にあい、初めて水害の恐ろしさを

目の当たりにしました。家のすぐ目の前にある川の水位が川岸のあと数センチのところまで上がってきて、急いで一階に置いていたものを全部二階にあげ、子供たちと一緒に近くの公民館に避難しました。

コロナ禍にて

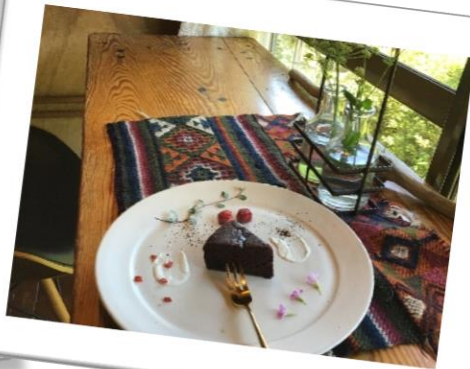
御夫婦でイベントを中心にキッチンカーの仕事を福岡県や熊本県等で行っていましたが、行き来ができず、自粛のため自宅でテイクアウトを中心にカフェを始めました。また奥様は、玖珠町のB&Gを借りて水泳教室を行っていますが、こちらもコロナの影響を受けました。まさか居住して二年で環境が大きく変化するとはまったく予想していなかったそうです。「今ではたくさんのお客様に来て頂き、前回御来店いただいたお客様が新しい方を連れてきてくれたりもして大変嬉しいです。」と笑顔で話されていました。

これからのこと

「コロナ禍だからとふさぎ込んでも仕方がないので、今できることをしていかなければ。」と前向きなお二人。「将来はカフェでマクロビスーツなどの講座を開いて、人々が集まる場所にしたい。」と奥様が夢を語ってくれました。また、「情報発信誌の『ひたスタイル』に掲載されるように頑張ります。」と御主人。目をキラキラ輝かせながらお話ししてくださる、日田市に新しい風を吹き込んでくれた素敵な鷺頭さんご一家でした。



2019年4月 九重町より移住された鷺頭さんご家族（将治さん、瞳さんと7人の子供たち）



ランチメニューは奥様のご担当。元マクロビ料理教室の講師で、天然酵母のベーグルや自家製ドリンク、グルテンフリーの米粉クッキー等を作っています。現在カフェではオムライスやベーグルサンドをランチで提供しています。使われている食器や内装インテリアはアンティークで揃えており、御主人の趣味の北欧調アンティークと奥様お好みのアメリカンテイストを融合させている空間はお客様から「ここは日田じゃないみたい!」と言われるほど。

キッチンカーをしていたころの鷲頭さんご夫婦

天井から下がっているフラワーアレンジメントは市内・日ノ隈町のお花屋「菜」さんの作品



牧場を始めて子牛の第三号が産まりました!
妻の作るマクロビスイーツは最高です!
ICHI 5 MONEで子供たちとお待ちしています。



ICHI 5 MONE (イチゴーモネ)

場 所：日田市羽田町178

営業時間：金曜日・土曜日 午前10時～午後4時

お問合せはFacebookもしくはInstagramのメッセージからお願いします。



Facebook